

大阪陸地の変遷

2万3千～2万年前



平均気温が今より6～8度も低いとても寒い時代で、海面は今より100mあまり低かったため、大阪湾や瀬戸内海は干上がっていました。

1万2千年前



寒い時代が終わり、雪や氷がとけて海面が少しずつ高くなるころには、海岸線が今のJR大阪駅のあたりになっていました。

約9千年前



海面が今より15mほど低いところまで上昇しました。上町台地や生駒山地の西の谷の間にも海が入り込んでいました。

約5千5百年前



海面がどんどん高くなり河内湾と呼ばれる内海がもっとも大きくなりました。上町台地は大阪湾に面していた海岸が波でけずられて細長い半島になり、住吉区のすぐ西まで大阪湾がせまっていました。

約5千年前



淀川は河内湾の北側を埋めたていき、大和川も南から陸地を広げていきました。そのため、河内湾はしだいに小さくはじまりました。

約2千1百年前



上町台地の北側の海には、波で吹き寄せられたり、淀川により運ばれてきた砂や石ころがたまって河内湾の出口がせまくなったため、河内湾は淡水の河内湖になりました。